

行政改革推進会議
EBPM推進委員会（第2回）
議事要旨

【開催日時】

令和8年9月18日（金）10時40分～11時21分

【場 所】

オンライン開催

【出席者】

（構成員） 阪田 渉 委員長（内閣官房副長官補（内政担当））を始めとする当委員会の構成員

（関係者） 各府省庁会計課長等

【議 事】

1. 各府省における取組紹介
2. 今後のスケジュール等
3. 委員長発言

【議事の経過】

1. 各府省における取組紹介
内閣府、デジタル庁、文部科学省及び農林水産省から、それぞれEBPMの取組について紹介が行われた。（資料1～4）
2. 今後のスケジュール等
行政改革・効率化推進事務局から、行政事業レビューシート等の点検におけるAI活用に向けた実証事業や今後のスケジュールについて説明が行われた。（資料5、6）
3. 委員長発言
阪田委員長から発言があった。要旨は次のとおり。
○ 本日は、EBPMの取組事例として、①多様なアプローチにより組織的なEBPM推進と人材育成に取り組む内閣府、②EBPMを支える様々な取組を再構成して仕組み改革を進めるデジタル庁、③変化の早い分野で、エビデンスに基づく戦略的な政策形成を進める文部科学省、④高度なスキルを含む

実践的なEBPM人材の育成を進める農林水産省の取組を紹介いただいた。

- 各府省は所管する政策分野が異なるため、それぞれのEBPMの取組にも特色がある。本日紹介された事例を個別のケースとして受け取るだけでなく、自らの業務に活かせる要素は何かという視点で捉え直し、各府省に持ち帰って実務の改善につなげてもらいたい。
- また、本年2月のこの委員会において私からも御協力をお願いした、行革事務局によるAI実証に、多くの府省に御協力いただいたことに感謝申し上げる。今回の実証で得られた成果や課題を、行革事務局においては次期RSシステムにしっかり反映させてほしい。
- 行革事務局をはじめEBPMに関係する府省では、EBPMに関する理解の促進と更なる定着に向けて、研修やEBPMガイドブックなどを提供しているので、人材育成や職員の能力向上のため、積極的に活用いただきたい。
- EBPMの取組は、政策の質を高める上で、行政官にとって極めて重要、かつ、必要不可欠なものである。各府省においては、引き続き「基礎的なEBPM」の考え方を職員に浸透させるため、研修の実施など人材育成に主体的に取り組んでいただきたい。特に、幹部職員・管理職員には、OJTを通じて「基礎的なEBPM」の考え方に基づく指導・育成をお願いしたい。また、日頃のコミュニケーションを通じて、政策目的や根拠データ等について職員同士が活発に議論する文化を醸成していただきたい。

以上

(文責：内閣官房行政改革・効率化推進事務局)